全国保育実践交流連絡会ニュース

2019年3月　　南埼玉地区発行

南埼玉では恒例の合同合宿を2月21日(木)～23日(土)・
鴻巣ひかり幼稚園で行いました。10ヵ園の年長児139名と保育士28名が
2泊3日で6回の食事と2回のおやつを共にしながら幸せな時間を過ごし、
育ち合えたのではないかと思っています。

綺麗に掃除して迎える

3日間を過ごせるように会場園としての掃除は気を使うところです。また、3日目の保護者の方々が見に来られる時には全部の園の保育士が総出で朝から綺麗にしました。

久しぶりの交流

インフルエンザの流行で12月・1月の交流は出来ませんでした。それでも各園で育ってきているので、139名の歌声は澄んで力強かったのです。

数曲歌ってからリズム遊びの時の座り方を決めました。生まれ月ごとに座った事がないのです。「もうじき小学校に行くよね、別々の小学校に行く子もいるし、勇気を出していつもの保育園の友だちでは無い子と座るというのはどうかな？良いと思う人　手を挙げて！」・・・急いで数えたら95名。

多数決だから月ごとになるけど仕方ないよね。とはしないで、95名には月毎の場所に行ってもらって、45名の子には周りを見回して友だちを見つけて座るところを選んでもらいました。「友だちが呼んでくれるかもしれないし、一緒に居たい子がいたらそこに自分で選んで行って！」

自分はイヤだと主張できた子の思いを凹ますことなく自ら選んで折り合いを付けられたようで、満足したようで穏やかにリズム遊びが始まりました。

緊張を解き放つ

土台と言われるリズムをやる前に、月ごとに座っているということへの念押しと偉かったね～、という賛辞を込めて4月生まれの子たちから順にかけっこをしました。ものすごく張り切って走った、仲間を応援する声援もすさまじいものがあった。緊張はすっかり解けたように思えました。

早起きして園庭の焚き火で暖まります。寒い早朝の大きな焚き火に眠気も吹っ飛びます。木の葉が高くひらひら舞って子どもたちも歓声をあげます。

もっとも大事な食べること！

温かくて、おいしい食事
おいしい食事は子どもも大人も幸せにしてくれます。
「合宿とは言え、特別なメニューにはしたくない
普段と変わらない給食をより丁寧に作ることを心がけて
います」という調理の人たちの声です。

日ごとに素敵になってきたリズム遊び

側転も綺麗に足が伸びてきている、みんな上手くなってきていると思えたので、一通りやってから、「自分は大名人だと思う子・どうぞ！」と声をかけたら、5・60人もが出てきた、慌てて「女の子から～」「続いて男の子」それから続けて「まだ名人とは言えないけど、名人になりたい子！」確かにまだ足がちょっと曲がっている、けれども健気にもこれから練習して名人になるぞ～と意気込みが感じられる子たちが、自分の力量が分かっている賢い子たちが堂々とやってくれた。子どもたちは誰も自分を諦めてはいないことが嬉しい。

大田堯先生は生前、「保育・教育はアートなのです」「生きものの特徴は自ら
変わるという力を持っている」「一人ひとり違うのだが、関わりを持たないと
生きていけない、関わりを持つことで変わっていく」「遊びは学力を身につける上での
基礎体験」「自然が欠けていると人間の人間らしさの獲得に問題が生じてくる」
等々大事なことを語ってくださいました。また、子どもを束にして扱っていると
日本の学校の現状を批判しています。
そうした先生からの学びをもって行った,合宿でのリズム遊びでした。
これからも、この学びを大切にしながら、保育実践につなげていきたいと思います。

南埼玉地区も世代交代が進んでいます。園長交代・ベテラン勢の退職が起きています。
新人保育士が多くを占めたり、保育士の人数不足で園長会が出来ないという厳しい現場になりかねないということが南埼玉でも起こり得るかもしれません。
認可園が増えて経営的には安定してきているにも拘らず、保育士不足という考えもしてこなかった問題で,大事な交流が危ぶまれるとは…。
そのような中でも明日への「かすかな光」は子どもたちがまともに育ちあえてるということだと思います。多くの幼稚園、保育園の子どもたちの状況は、ますます指示され発達段階や個人の特性をも考慮しない教え込みがエスカレートし、やらせ保育が低年齢化しているように思えます。
そういう子どもたちにとって厳しい状況の中で、私たちの保育は存在価値があると思うのです。かすかな光を灯続けて行きたいと思います。